



尾久西だより

荒川区立尾久西小学校

発行日 令和元年12月2日

発行者 校長 芝田 智昭

No. 343 12月号

苦手なことを続ける意志

いよいよ師走、今年も残すところ1か月になりました。これまで、保護者・地域のみなさまのご理解とご支援をいただき、充実した教育活動を展開できております。改めてお礼申し上げます。

一昨日に行ったマラソン大会では、多くの保護者・地域の方々のご観覧を賜りありがとうございました。たくさんの拍手と声援は、子どもたちの大きな励みになりました。尾久西小では、先月の18日からマラソン大会に向けた全校的な取組を始めました。朝の時間や中休みにそれぞれの学年に応じたペースで走り、練習を積み重ねてきました。中には、運動が苦手な子や走るのが好きではない子がいるのですが、全員がマラソンに取り組みました。得意なことであれば自分から始めたり参加したりしますが、苦手なことへの取り組みは大人でも難しいものです。

少し前になりますが、10月に尾久地区の連合運動会がありました。毎年6年生が参加しており、今年も運動会の3週間前から朝練を開始しました。7時50分に登校して、8時から8時40分まで練習です。100m走、800m走、50mハードル、走り高跳びのいずれかに出場します。マラソンと同じく、運動が苦手な子や走ったり跳んだりするのが好きではない子がいたはずですが、全員が朝早くから3週間も練習を続けるのです。自分の小学生のころを思い出すと、ボール運動は好きでしたが陸上競技はそうでもなかったような気がします。ですから、小学生の私が朝8時から3週間の朝練に耐えられたか自信がありません。でも、本校の6年生は、嫌そうな顔をしている子はいませんでした。力を抜いている子もいませんでした。

そうした取組が成果につながり、当日は全員が力を出し切り素晴らしい成績を修めることができました。一緒に練習してきた友達への声援も大きく温かく、選手の背中を力強く押していました。

このような尾久西小の子どもたちの様子から、私は、苦手なことを続ける意志を感じています。好きなことや得意なことだけでなく、すべてのことに全力で挑戦しやり遂げようとする強い気持ちを感じています。そうした意志や気持ちを行動に移すことで、努力が成果に結び付き、自分自身の成長を実感できています。

年末から年始にかけて、ご家族で過ごす時間が多くなると思います。その際、あえて苦手なことを話題にして、そのことへの挑戦を新しい年の目標の一つにすると、さらなる成長につながるかもしれません。